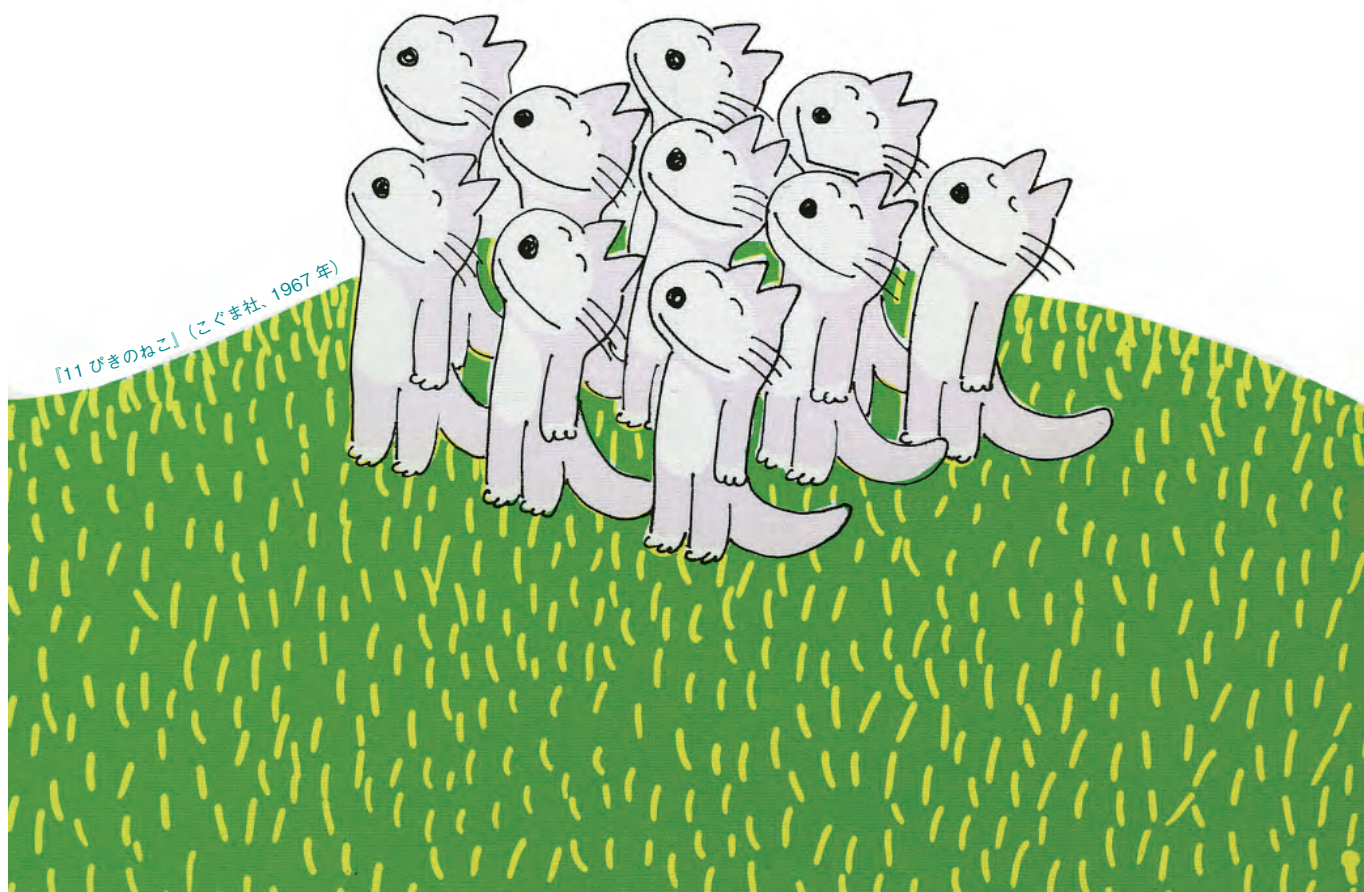


“11 ぴきのねこ” がやってくる ニャゴ! ニャゴ! ニャゴ!

馬場のぼる展

プレスリリース

青森県立美術館 ㊦
AOMORI MUSEUM OF ART



“ The Eleven Cats ” Come To The Museum Nyago! Nyago! Nyago! BABA Noboru

“11ぴきのねこ”がやってくる ニャゴ!ニャゴ!ニャゴ!

馬場のぼる展

2009 7 / 29 (水) — 9 / 6 (日) ※ 会期中無休 (公開日 40 日)

開館時間 9:00—18:00 (入館は 17:30 まで)

観覧料

一般 800 円 (600 円) 高校・大学生 500 円 (400 円) 小・中学生 200 円 (100 円)

※こども美術館デイ開催期間中 (7/29—8/23) は、小・中学生観覧無料。

※() 内は前売および 20 名以上の団体料金。但し、小・中学生の前売はなし。

※心身に障がいのある方と付添者 1 名は無料。

※小・中・特別支援学校の児童生徒及び引率者が、学校教育活動として観覧する場合は、常設展に準じて無料。

前売り券販売所: サークル K サンクス (サークル K / 青森、秋田、岩手県内の各店舗、サンクス / 東北各県、北海道央、道南地区の各店舗) ローソンチケット (レコード 23496)、サンロード青森、イトーヨーカドー青森店・弘前店、さくら野百貨店青森店・弘前店・八戸店、三春屋、中三青森本店・弘前店、成田本店しんまち店 Pax、紀伊國屋書店弘前店、県庁生協・青森県民生協、弘大生協、青森市文化会館、青森県立美術館ミュージアムショップ

会場: 青森県立美術館企画展示室

主催: 馬場のぼる展実行委員会 (青森県立美術館、青森朝日放送、デリー東北新聞社、陸奥新報社)

特別協力: 三戸町、株式会社こぐま社

協力: 青森県立図書館、青森市民図書館

後援: 青森県教育委員会、青森県保育連合会、青森県私立幼稚園連合会、青森県 PTA 連合会

お問い合わせ

馬場のぼる展実行委員会事務局 (青森県立美術館内) 角田 (総務)・板倉 (学芸)

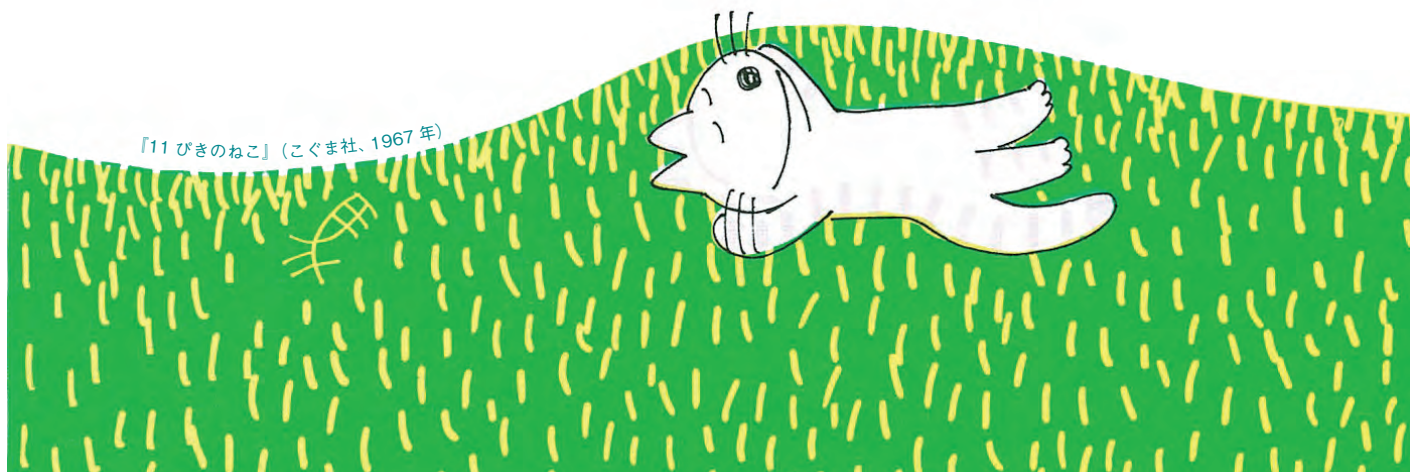
青森市安田字近野 185 〒038-0021

Tel 017-783-3000

Fax 017-783-5244

www.aomori-museum.jp

※ 画像提供については、千代谷 (広報) までお問い合わせください。



1. 展覧会概要

60年前の戦後まもない昭和24年5月、青森県三戸町に住む一人の青年が満開の桜とりんごの花に見送られながら漫画家を志して上京しました。彼の名は、馬場のぼる。子どもたちの何気ない日常をテーマに、ユーモア溢れる描写で明るくのびやかな世界を表現した馬場の作品は瞬く間に人気となり、手塚治虫、福井英一と共に“児童漫画界の三羽ガラス”として「ポストくん」「ブウタン」などの人気作品を次々と生み出しました。その後、活躍の場を大人向け週刊誌や新聞に広げた馬場は、「ろくさん天国」「バクさん」などに代表される独特のユーモアとナンセンスに彩られた〈ほのぼの漫画〉を数多く手がけます。そうしたなか、絵本という新しいジャンルが馬場の前に開かれます。当時、時代が求めている漫画と自身の作品世界との間にズレを感じ始めていた馬場は、この新しいジャンルに飛び込み、漫画で表現していた世界観をそのまま絵本の世界に導入していきました。とくに、昭和42年に第一作が発表されて以来、約30年をかけて6冊を手がけた『11ぴきのねこ』シリーズは、テンポの良いストーリー展開と奇想天外な結末によって多くの子どもたちを魅了し、現在まで続くロングセラー絵本となっています。

本展は、馬場のぼるの仕事を総合的に紹介する初の回顧展です。表現のジャンルを軽やかに横断しながら独自の世界観を生涯追求し続けた漫画家、馬場のぼる。その作品世界を『11ぴきのねこ』シリーズなどの絵本資料をはじめ、初公開となる活動初期の貴重な漫画原画やラフスケッチ、アイデアノートなどの資料をとおして紹介し、創作の秘密に迫ります。

出展作品

絵本原画・漫画原画等：約250点

資料等：約50点



© 馬場のぼる

2. 展示構成（予定）

第1章：絵本の世界

馬場のぼるの絵本はいくつかの特徴的な要素がストーリー形成において重要な役割を果たしています。その一つが、予想を裏切るようなストーリー展開、いわゆる“オチ”です。馬場は、小さな子どもを対象にした絵本の世界に、漫画家としての活動の中で培われた本格的な「笑い」の要素を持ち込んだ先駆的存在でした。その他にも、社会生活から少しはみだした存在ながらも自分の信念を大切にしながら悠々と生きる“自由人”的登場人物の存在や、誰もが良く知る日本の昔話を独自の解釈によってユニークに語りなおした作品、故郷三戸の自然を舞台にした作品などに馬場作品の独自性が顕著にあらわれているように思われます。

ここでは、馬場のぼるが手がけた絵本の中から代表的な作品の原画資料等をいくつかのキーワードを通して紹介し、馬場絵本の魅力と特質について考えます。



『もんと大いのし』（ポプラ社、1975年）



『きつね森の山男』（こぐま社、1974年）

第2章：児童マンガの時代

1927年、三戸町に生まれた馬場のぼるは三戸小学校、岩手県福岡中学校を卒業後、志願して海軍予科連14期生として土浦海軍航空隊に入隊、特攻隊員として敗戦を迎えました。その後、郷里三戸町に戻った馬場は、代用教員や映画の看板かき等をしていましたが、1948年に『怪盗カッポレ団』でデビュー、その頃三戸町に疎開していた児童文学者、白木茂の知遇を得たことをきっかけに白木とともに上京、本格的に漫画家としてのスタートをきります。上京翌年から連載が開始された『ポストくん』等の漫画で人気を得た馬場は、1958年には『ブウタン』で第一回小学館漫画賞を受賞するなど着実に人気児童漫画家としての道を歩みはじめました。

ここでは、1950年代から60年代にかけて発表された数多くの児童漫画の仕事を紹介するとともに、デビュー前の投稿漫画や上京前に手がけた漫画単行本（赤本漫画）などもあわせて展示し、児童マンガの仕事を振り返ります。



『ポストくん』（集英社『おもしろブック』、1950-1954年掲載）※ 原画



『ブウタン』（集英社『幼年ブック』、1954-1957年頃掲載）※ 原画



第3章：大人マンガの時代

学習雑誌などを舞台に次々と人気作品を生み出していった馬場のぼるでしたが、時代の変化とともに児童漫画の世界も大きく様変わりしていきます。スピード感溢れる画面構成によるドラマチックでシリアスな長編ストーリー漫画が子ども達の人気を集めるようになると、日常世界をほのぼのとしたタッチと独特のユーモアで描いた馬場漫画は、次第に児童漫画の中心から外れていくようになります。そして、1958年、漫画家松下井知夫の推挙により「漫画集団」に所属した馬場は大人漫画の世界へと、その活躍の場を移していったのです。当時の大人漫画は、戦後の政治的混乱が一段落した世相を反映し、政治風刺ものが人気を失いつつある中で、一般庶民の生活の中に潜む笑いが広く人気を集めるようになっており、ほのぼのとした日常描写を得意とする馬場の漫画が愛されたのです。

ここでは、1960年代から70年代を中心に新聞や週刊誌等に発表された大人漫画を中心に紹介します。



「こんにゃく物語」(実業之日本社、『漫画サンデー』掲載)より
※ 原画



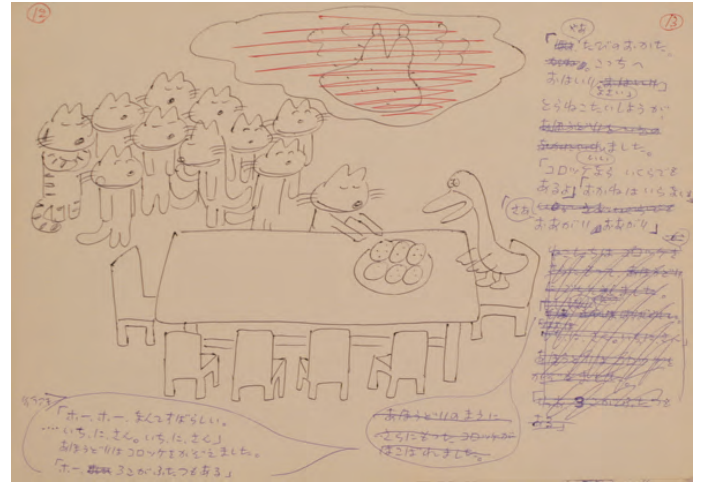
『柿の木村のめし』(実業之日本社、『漫画サンデー』掲載)より
※ 原画



第4章：ねこの世界

馬場のぼるの作品の中でも特に多くの人々から長年にわたり愛され続けている「11ぴきのねこ」シリーズ。「11ぴきのねこ」が1967年に出版されて以来、最後の作品となった「11ぴきのねこどろんこ」(1996年)までの約30年間に、11ぴきのねこを主人公にした6冊の本が制作されました。「11ぴきのねこ」達との出会いこそが、馬場が絵本の世界で本格的に活躍する大きなきっかけとなったのです。

ここでは、「11ぴきのねこ」の世界を特集展示します。「11ぴきのねこ」シリーズ誕生秘話や、「11ぴきのねこ」絵本が出来上がるまでの制作過程などを分かりやすく紹介するとともに、「11ぴきのねこ」をモチーフにした関連作品などもあわせて展示、「11ぴきのねこ」の魅力に迫ります。



『11ぴきのねことあほうどり』(こぐま社、1972年)※ ラフスケッチ



『11ぴきのねことあほうどり』(こぐま社、1972年) p12-13



『ねこのせかい』(こぐま社、1986年) より

第5章：漫画家、馬場のぼる

児童漫画から大人漫画へ、そして絵本の世界へと時代とともに馬場を取り巻く環境は変化していきましたが、彼が表現しようとしていたものは一貫して変わることがありませんでした。ここでは、馬場のぼるの生い立ちに関わる関連資料や漫画家として上京する以前の初期作品、愛用品、そしてアトリエに残されていたアイデアノートや膨大な量のスケッチなどを初公開することにより、漫画家、馬場のぼるの創作の源泉に迫ります。



デビュー前の投稿漫画 (昭和20年代前半)



『黄金鷲』(昭文社、1948年)

3. 作家プロフィール

馬場のぼる BABA Noboru (1927－2001)

略歴

- 1927 (昭和 2) 三戸町に、馬場民衛、きくの次男として生まれる。
- 1944 (昭和 19) 岩手県立福岡中学校 (現: 岩手県立福岡高等学校) 修了後、海軍飛行予科練習生として、土浦海軍航空隊に入隊する。
- 1945 (昭和 20) 終戦後、三戸町に帰郷。代用教員等を勤める傍ら、独学で漫画の勉強をはじめ。
- 1948 (昭和 23) 処女作「怪盗カッポレ団」が刊行される。
- 1949 (昭和 24) 疎開していた同郷の児童文学者、白木茂の勧めにより、白木とともに上京。学習雑誌に児童漫画を描き始める。
- 1956 (昭和 31) 「ブウタン」で第 1 回小学館漫画賞受賞。
- 1958 (昭和 33) 漫画集団に入団。この頃より大人漫画を描くようになる。
- 1963 (昭和 38) 絵本「きつね森の山男」制作後、本格的に絵本制作に着手する。
- 1972 (昭和 47) 「漫画家の絵本の会」の結成に参加する。
- 1973 (昭和 48) 漫画「バクさん」、絵本「11 ぴきのねことあほうどり」で第 19 回文藝春秋漫画賞受賞。
- 1985 (昭和 60) 「絵巻えほん 11 ぴきのねこマラソン大会」でボローニャ国際児童図書展エルバ賞受賞。
- 1989 (昭和 63) 第 17 回デーリー東北賞 (デーリー東北新聞社) 受賞。
- 1995 (平成 7) 紫綬褒章受賞。
- 1998 (平成 10) 三戸町名誉町民の称号が贈られる。
- 2000 (平成 12) 第 53 回東奥特別賞 (東奥日報社) 受賞。
- 2001 (平成 13) 死去。

主な作品

〔児童漫画〕

「ポストくん」(集英社『おもしろブック』1950－1954 年掲載)

「山から来た河童」(秋田書店『冒険王』1951－1954 年掲載)

「ブウタン」(集英社『幼年ブック』1954－1957 年頃掲載)

〔大人漫画〕

「ろくさん天国」(芳文社『週刊漫画 TIMES』1961－1967 年掲載)

「 〃 」(ブロック紙 3 社連合 1969 年掲載)

「バクさん」(日本経済新聞社『日本経済新聞』1970－1983 年頃掲載)

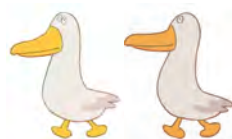
〔絵本〕

「きつね森の山男」(岩崎書店、1963 年) ※ 1974 年、描き直しの上、こぐま社より出版

「11 ぴきのねこ」(こぐま社、1967 年)

「絵巻えほん 11 ぴきのねこマラソン大会」(こぐま社、1985 年)

「ぶどう畑のアオさん」(こぐま社、2001 年)



4. 関連企画

■ 記念講演会 「11 ぴきのねこと馬場のぼる」

講 師：佐藤英和（株式会社こぐま社会長）

日 時：8 月 15 日（土） 13：30－15：00

会 場：青森県立美術館シアター

定 員：先着 220 名・申込不要・無料

[佐藤英和 さとう・ひでかず]

長崎県生まれ。神戸経済大学（現：神戸大学）卒業後、河出書房勤務を経て、1966 年、こぐま社を設立。以後、「11 ぴきのねこ」シリーズをはじめ、「こぐまちゃんえほん」シリーズ、「わたしのワンピース」など数多くの絵本の出版に携わっている。

■ プレイイベント キッズルームおはなし会特別企画

「くるくる楽しい！にゃごにゃご風車！！」

ねこがくるくる回る風車を作って遊ぼう。

絵本「11 ぴきのねこ」シリーズの読み聞かせもおこないます。

日 時：7 月 25 日（土）、26 日（日）の 10：00－15：00

時間内であればいつでも参加可能・無料

※ 絵本読み聞かせは 10：30－ / 11：30－ / 13：30－ / 14：30－
各 15 分程度

場 所：コミュニティギャラリー

企画運営：青森中央短期大学幼児保育学科

■ ワークショップ 「蛍光ペンで絵本をマンガにする」

馬場のぼるの絵本「11 ぴきのねこ」のストーリーを題材に、イメージをふくらませながら、蛍光ペンを使ってマンガをつくります。

講 師：横山裕一（漫画家・イラストレーター）

日 時：8 月 29 日（土）13：00－16：00

場 所：ワークショップ A

対 象：中学生以上

定 員：30 名・無料

申込方法：電話・Fax（先着順）※ 7 月 28 日～申込受付開始

[横山裕一 よこやま・ゆういち]

宮崎県生まれ。武蔵野美術大学美術学科卒業。著書に「横山裕一カラー画集」（ブルーマーク）、「ニュー土木」[NIWA]（イーストプレス）など。『New Engineering』の「Book」でアイズナー賞のベスト短編賞にノミネートされるなど海外でも高い評価を受けている。2006 年「縄文と現代」展（青森県立美術館）、2007 年「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」展（森美術館）に出品するなど美術界からの注目も集めている。

■ 夏休みこどもギャラリーツアー

こども美術館デイ期間中（7/29－8/23）の毎土曜日・日曜日、美術館スタッフと一緒に本展を楽しく鑑賞しましょう。

対 象：小学生程度

時 間：各日 11：00－ / 14：00－

定 員：各回 15 名・当日受付

（10 名以上で参加される場合は、事前にご相談ください）

※ 高校生以上の同伴者については、当日有効の本展観覧券が必要です。

そのほか、会場で自由に参加できる
ワークショップなど様々な
関連イベントを開催予定。

■ 「11 ぴきのねこ」ドラマリーディング

人気絵本「11 ぴきのねこ」シリーズの朗読劇。親子そろってお楽しみいただけます。

日 時：8 月 2 日（日）、9 日（日）、22 日（土）の 13：00－ / 15：00－

場 所：青森県立美術館企画展示室

監 修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

出 演：青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

※ 高校生以上は当日有効の本展観覧券が必要です。

